



第14回

陸上・日本選手権

※2023年6月の毎日新聞記事を元にした文章です。

校閲し、直すべきところを指摘してください。

◇陸上・日本選手権、男子1000
0対決勝（6月4日、大阪・ヤン
マースタジアム長居）

▽サニブラウン・ハキーム（タ
ンブルウィードTC）118位（10
秒26）

決勝でスタートから明らかに出遅れた姿に、誰もがサニブラウンのアクシデントを疑った。2022年世界選手権（米オレゴン州）のファイナリストは「左脚が「つた」のだという。世界選手権と同様、2日で計3本をこなすレース。改めてコンディショニング調整の難しさを思い知った。

準決勝は流したようにフィニッシュしたように見えたが、実はこの時点で脚に違和感があった。決勝は「セット（の段階）でガッと

つた」。少しばたつきながら走り出し、中盤から完全に失速した。

前回大会以来、1年ぶりとなる国内のレース。オレゴンでオリンピックを含め90年ぶりとなる決勝進出を果たし「ここからが本当の

スタート」と、世界の頂点に向けての決意を新たにしたシーズンだ。活動拠点の米国で4月にレースをこなし、今大会は開幕前日の5月30日に帰国したばかり。強硬軍的なスケジュールの中で「練習を結構やっていたからかな」。体は知らず知らず、悲鳴を上げていた。

救いだったのは、レース後に努めて明るく振る舞っていたことだ。まだ突破していない23年世界選手権（ブダペスト）の派遣設定記録（10秒00）に向け「日々の生活か

り見直してきますが」。笑って振り返れる日は、きっと来る。